

じそんのかね

自尊の鐘



蕪崎西中学校 学校だより

2020.11.20. NO16

発行責任者 校長 秋澤英俊

「人を敬い、いっくしみ、自らをたつとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお知らせします。



心を響かせ想いがひとつになる—伝統の復活と新しい合唱祭



コロナウィルス感染拡大によって、3月から西中の伝統となっていた合唱ができなくなりました。合唱祭を行うことがきまり、練習を始めたのが約1ヶ月前、そして迎えた18日(水)、令和2年度の合唱祭が終わりました。当日の朝の冷え込みの中で、まず「今年も合唱祭がやれてよかった」と胸をなで下ろしましたが、終わった後には「やはり合唱祭をやってよかった」という気持ちになりました。

3月からの長いブランクの影響と約1ヶ月の短い取組み期間で、『生徒達は、はたして「歌えるのだろうか」、「以前の合唱を取り戻せるのだろうか』と、最初は不安がありました。本番では見事にそんな不安を吹き飛ばし、仲間と心を響かせ想いがひとつになって、聴いている人に伝わる素晴らしい合唱になりました。特に3年生の合唱は、伝統の底力と最上級生としての誇りと思いがステージに立った瞬間から、そして曲の始まりから終わりまで会場にあふれ、どのクラスも見事な合唱でした。いろいろな制約の中での取組でしたが、先輩から後輩へ合唱のバトンがしっかりと渡された「やってよかった」と心から思える合唱祭でした。

人の体は「共鳴する器」と言われているそうです。口を開き、吸う息と吐く息をそろえて歌っていると、自分の声が隣の人に伝わり、体を震わせる。自分の体も周りの声によって震え、周りの人や違うパートの声が自分の体に響き始めると言われているのです。

そして響き合うのは音だけではありません。心を開き、周りの人の声に耳を澄ましていると、相手の気持ちが自分の心に響いてくるし、自分の思いも周りに響いていきます。たくさんの人々の色々な声が重なれば重なるほど、多くの人々の思いが響き合い、みんなの思いがだんだんひとつになっていくのです。パズルピースのように「誰一人として欠けてはならない、みんなが必要で大切だ」ということが自然にわかってきます。

「なぜクラスで合唱をするのか」、それはクラスの仲間と共鳴し合い、心で響き合い、つながる、そんなことが味わえるからなのだと思います。

伝統を築くことは長い年月を必要とします。でも、築いた伝統をつなげていくことはさらに大変なことです。コロナ対応のこの特別な1年で、そんなことをよく感じます。西中の伝統である合唱祭が今年も開催され、伝統がしっかりと引き継がれていったことを、心から喜び、生徒に感謝したいと思います。そして今年も多くの保護者の皆様にご参観いただきました。心よりお礼申し上げます。



